

知名町屋子母地域地力増進対策指針

平成16年11月25日策定

1. 地力増進地域内の土壌の性質

本地域は、沖永良部島の南西部に位置し、大山南部緩傾斜面の標高40から150メートルに分布する。

土壌は琉球石灰岩を母材とする細粒暗赤色土に分類され、腐植含量が少なく、粘土含量が多い。また、pHや石灰含量が高く、石灰含量と苦土含量の当量比の乱れが大きい。

さらに、有効態リン酸も不足している。なお、作土が浅く、下層土はち密であり、有効水分が少なく、透水性が不良である。

2. 土壌の性質の改善目標

(1) 土壌のpHが6.0以下の普通畑

ア 腐植含量は3パーセント以上とする。

イ 土壌のpHは6.0から6.5までとする。(但し、バレイショについては5.0～5.5までとする。)

ウ 加里飽和度は2から5パーセントとする。

エ 有効態リン酸含量は乾土100グラム当たり10ミリグラム以上とする。

オ 石灰飽和度は50パーセントから70パーセントまで、塩基飽和度は60パーセントから80パーセントまでとする。

カ 石灰含量と苦土含量の当量比は4から8までとする。

キ 主要根群域の有効水分は、15パーセント以上とする。

ク 有効根群域の最小透水係数は、1秒間当たり 10^{-4} センチメートル以上とする。

ケ 有効根群域のち密度は、山中式硬度計で22ミリメートル以下とする。

(2) 土壌のpHが6.0以上の普通畑

ア 腐植含量は3パーセント以上とする。

イ 加里飽和度は2から5パーセントとする。

ウ 有効態リン酸含量は乾土100グラム当たり10ミリグラム以上とする。

エ 主要根群域の有効水分は、15パーセント以上とする。

オ 有効根群域の最小透水係数は、1秒間当たり 10^{-4} センチメートル以上とする。

カ 有効根群域のち密度は、山中式硬度計で22ミリメートル以下とする。

3. 土壌の性質を改善するための資材の施用に関する事項及び耕うん整地その他地力の増進に必要な営農に関する事項

(1) リン酸資材は、土壌pH及び塩基バランスに応じて選択する。

(2) 加里飽和度が基準値以上の場合は加里施用量を減らす。また、加里含量の高い有機物資材は施用しない。

(3) 石灰資材の施用は石灰含量及び苦土含量の当量比を勘案し、施用量を決定する。

(4) 有機物は未熟なものの施用を避け、完熟したものを施用する。また、緑肥作物を鋤込む場合は、十分な腐熟期間をとる。

(5) サブソイラー、パンブレーカー等により硬盤層の破碎を行う。

4. その他地力の増進を図るために必要な事項

土壌のち密化及び表土の流失を防止するため、なるべく裸地期間を少なくし、緑肥作物を導入する。